

わたしのうちに清い心を造ってください

詩編 51 : 1－10



司祭 ヨハネ 井田 泉

聖霊降臨後第 14 主日

2025 年 9 月 14 日

聖光教会にて

今日は先ほど一緒に交唱した詩編第 51 編を読んでみることにしましょう。この詩編は 150 編ある詩編の中でも代表的なものの一つで、ここでは詩人（詩編作者）が自分の罪を神の前に告白して、赦しと救いを切に祈り求めています。

ところで、キリスト教信仰において何が大切か、問われたら、どう答えるべきでしょうか。わたしはこの詩編を読んで、一つの言葉が浮かびました。それは「信仰的良心」という言葉です。神の前に良心を持って生きたいと願う。間違ったことをすれば心が痛む。赦しを必要とするし、赦しを受けることによって新しく生かされて、まっとうに生きることを決意する。これが信仰的良心です。このことが曖昧になってしまっていないだろうか、と反省します。さて、詩編第 51 編に耳を傾けてみましょう。祈り書の詩編を用います。

1 神よ、慈しみによってわたしを顧み || 豊かな憐れみによって、わたしのとがを赦してください

神に赦しを求めて祈っています。「わたしのとが」。自分が間違ったことをした。心を突き刺すような痛み、耐えきれない重荷を心に抱えて、神に、神の憐れみにすぎる以外にないのです。

2 悪に染まったわたしを洗い || 罪深いわたしを清めてください

3 わたしは自分の過ちを認めています || 罪はいつもわたしの目の前にあります

「悪に染まったわたし」「罪深いわたし」。もうごまかすことも曖昧にすることもできない。「わたしは自分の過ちを認めています」。このわたしを清めてください。

4 わたしはあなたに罪を犯し、あなたの前で悪を行いました

|| あなたがわたしを審^{さば}かれるとき、その審きはいつも正しい

この人は、神の前で、神に対して罪を犯した、と告白します。赦しを求めてうめきつつ、神の正しい審きに服します。神に罰していただかなければ自分の救いはない、とまで感じます。

それにしてもこの人の罪、この人の犯した過ちとは何なのでしょう。どんなに大きな悪なのでしょう。実は、祈禱書には省かれています。この詩編第 51 編には前書があります。新共同訳で見るとこう書いてあります。

「指揮者によって。賛歌。ダビデの詩。」

「指揮者によって」というのは、この詩編が礼拝で指揮者のもとで歌われた、ということでしょう。「ダビデの詩」とありますが、おそらくは後の時代の人々がダビデの出来事を自分に重ねて祈ったものでしょう。ダビデはイスラエルの繁栄を築いた、信仰深いとされる王です。ところがさらにこう書かれています。

「ダビデがバト・シェバと通じたので預言者ナタンがダビデのもとに来たとき。」

いったい何があったのでしょうか。ここで旧約聖書・サムエ

ル記下第 11～12 章に記された出来事に触れなければなりません。

時に、紀元前 1000 年頃、イスラエル軍は戦争中で、アンモン人の町ラバを包囲していました。ダビデ自身は出陣せず、首都エルサレムに留まっていました。ある日の夕暮れ、ダビデは昼寝から覚めて、王宮の屋上を散歩していました。屋上からは広く町を見渡せます。彼は、一人の女の人が水を浴びているのを見ました。非常に美しい人で、ダビデは自分を抑えることができず、使いをやってその女の人を召し入れました。そして一夜を共にした。彼女は家に帰ったのですが、やがて彼女から使いが来てこう伝えた。「子どもを宿しました。」この女性がバト・シェバです。

ダビデは内心、大変なことになったと思いました。というのは、そのバト・シェバは、今アンモンのラバを包囲しているイスラエル軍の武将ウリヤの妻だったからです。ウリヤの留守中に、ダビデ王がその妻と通じたということが露見すれば、自分の王としての立場も権威も失いかねない。そこでダビデは前線からウリヤを呼び寄せて、その労をねぎらい、贈り物を持たせて、「今夜は家に帰って休め」と言いました。家に帰って妻のバト・シェバと一夜を共にしてくれたら、事は露見せずにすむからです。ところがウリヤは非常に忠実な人で、家には帰らず、王宮の入り口で眠った。ダビデに問われてウリヤはこう言いま

した。「神の箱は仮小屋にあり、また皆が戦地で野営しているのに、自分だけが家に帰って楽しむことなどできません。」

ウリヤはその日も次の日も家に帰らない。ダビデはウリヤを招いて食事を共にし、酒を飲ませて酔わせたが、それでもウリヤは家には帰らなかったのです。

そこでダビデ王は前線の司令官ヨアブに宛てて手紙を書いた。こう書かれてありました。「ウリヤを戦いの最前線に出し、彼を残して退却して、戦死させよ。」

何も知らないウリヤは、王の手紙を大切に携えて前線に帰り、司令官ヨアブに届けた。そしてやがてダビデ王に報告が届きました。「ウリヤは死にました。」うまく事が運んだ。自分がしたことはだれも知らない。サムエル記下にはこう記されています。

「ウリヤの妻は夫ウリヤが死んだと聞くと、夫のために嘆いた。喪が明けると、ダビデは人をやって彼女を王宮に引き取り、妻にした。彼女は男の子を産んだ。ダビデのしたことは主の御心に適わなかった。」サムエル記下 11:26-27

「ダビデのしたことは主の御心に適わなかった。」神は見ておられたのです。

まもなく、ダビデのところにナタンという預言者がやって来ました。主が彼を遣わされたのです。ナタンはダビデにこんな話をしました。

「ある町に二人の男がいた。一人は豊かで、一人は貧しかった。貧しいその人はただ1匹だけ、雌の小羊を持っていて、それを自分の娘のようにかわいがっていた。ある日、豊かな男に客があって、その客をもてなすのに、自分の有り余る羊や牛を惜しんで、貧しい男が大切にしている小羊を取り上げて客にふるまった。」

これを聞いたダビデは激怒して、「主は生きておられる。そんなことをした男は死罪だ」と言いました。ナタンはダビデに向かって言いました。「その男はあなただ。」

ダビデはこの瞬間に自分の罪を悟りました。「わたしは主に罪を犯した。」

ナタンは言いました。「その主があなたの罪を取り除かれる。」

後の詩人は、このダビデの罪を自分の過ちと重ねて祈ったのです。それが詩編第51編です。

- 1 神よ、慈しみによってわたしを顧み || 豊かな憐れみによって、わたしのとがを赦してください
- 2 悪に染まったわたしを洗い || 罪深いわたしを清めてください
- 3 わたしは自分の過ちを認めています || 罪はいつもわたしの目の前にあります
- 4 わたしはあなたに罪を犯し、あなたの前で悪を行いました || あなたがわたしを審^{さば}かれるとき、その審きはいつも正

しい

.....

10 神よ、わたしのうちに清い心を造り || わたしのうちに正しい霊を新たにしてください

「清い心」「正しい霊」、それはわたしたちにも必要です。それを自分で造ることができるでしょうか。神さまからいただくしかないのです。

この詩編を自分のことのように読んで祈ってきた人は数多くいると思います。その一人はパウロです。彼はステファノの死に加担したことが心の重荷になっていたと思います。パウロは今日の書簡の中でこう言っていました。

「以前、わたしは神を冒瀆する者、迫害する者、暴力を振るうものでした。……『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。わたしは、その罪人の中で最たる者です。しかし、わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。」 テモテへの手紙 I 1:13、15-16

詩編第 51 編の祈りを他人事と思わず、大切にしたい。罪の告白と嘆きと祈りはわたしたちにも必要です。

けれども、わたしたちは新約聖書から、神がどのようにしてわたしたちを赦し、救い、新しく生かしてくださるのかを知らされています。

イエス・キリストが、その降誕、生涯、そして十字架の死によって、わたしたちを赦し、救い、新しく生かしてくださるのです。

「『キリスト・イエスは、罪人を救うために世に来られた』という言葉は真実であり、そのまま受け入れるに値します。」

この方は、今日の福音書にあったように、失われた羊のようになわたしたちを探し求め、連れ帰ってくださる方です（ルカによる福音書 15:4-6）。

詩編第 51 編の 8 節から 10 節をご一緒に祈りましょう。

8 わたしに喜びと楽しみを聞かせ || 打ち碎かれたわたしを、また喜びで満たしてください

9 わたしの罪を見つめず || 犯した悪をすべてぬぐい去ってください

10 神よ、わたしのうちに清い心を造り || わたしのうちに正しい霊を新たにしてください

救い主イエス・キリストが、わたしたちのうちに清い心を造り、わたしたちのうちに正しい霊を新しく燃え立たせてくださいますように。アーメン